

佐賀大学経済学部経済学科

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

資料目次

資料 1	2040 年を見据えた教育改革～個の主体性を活かし持続可能な未来を築く～	P. 2
資料 2	2040 年の就業構造推計（改訂版）について	P. 5
資料 3	佐賀県施策方針 2023	P. 9
資料 4	「社会で求められている人材像」企業・自治体等アンケート	P. 11
資料 5	経済学部経済学科設置に関するニーズ調査	P. 12
資料 6	18 歳人口（男女別）の将来推計	P. 28
資料 7	2040 年における 18 歳人口（推計）の減少割合	P. 29
資料 8	九州北部及び山口地区の 4 大学の経済学系学部の入学志願状況・受験倍率の推移	P. 31
資料 9	佐賀大学における地域別入学者の割合	P. 32
資料 10	佐賀大学オープンキャンパス 2025 の参加者状況	P. 33
資料 11	佐賀大学経済学部における入試状況	P. 34
資料 12	佐賀大学経済学部高大連携プログラム「社会へのとびら」実施状況	P. 35
資料 13	学生確保に関するアンケート調査	P. 36

2040 年を見据えた教育改革

～個の主体性を活かし持続可能な未来を築く～

2025 年 2 月 18 日

一般社団法人 日本経済団体連合会

1. はじめに

わが国は、急激な人口減少・少子高齢化により労働力が不足する中で、持続的な成長を実現するためには、われわれ一人ひとりの価値創造力の強化、労働生産性向上が不可欠である。また、同時並行で進行している地方の衰退を反転させる地域の担い手が必要とされている。さらに、デジタル技術の進歩やグローバル化の進展を通じて、身に付けるべき資質・能力が変容するとともに、より効果的な教育方法が模索されている。具体的には、AI およびデジタル技術の急速な進歩により、単純な知識の蓄積だけでなく、情報活用能力や創造性、論理的思考力、課題発見・解決能力等も求められるようになってきている。一方、グローバル競争力の低下を食い止め、回復させるためには、多様なバックグラウンドを持つ人たちと協働しながら新しい価値を生み出せるグローバル人材の育成も重要となっている。こうした環境変化から、教育のあり方を再定義する時期に来ている。

加えて、教育格差も喫緊の課題である。現状、本人に意欲や適性があっても、特に受験競争の過熱した状況下においては、保護者の経済力および家庭の文化資本によって子どもの教育機会が左右される。今後、子どもたちが学びと成長に夢を抱ける社会を目指すべきであり、この観点から、公教育への投資の重要性を改めて認識するとともに、教育格差を是正する必要がある。

将来推計によると、2035 年～2040 年にかけて 18 歳人口が急激に減少し、大学の学部入学者数は 2 割超減少する見通しである¹。18 歳人口の減少を踏まえ、将来を見据えた高等教育機関の改革を直ちに断行すべきである。同時に、出生数の減少に伴う生産年齢人口の減少を見据え、初等中等教育から高等教育、リスキリングを含むリカレント教育に至るまで、生涯にわたり一人ひとりが自らのキャリアを主体的に築き、磨き続けることのできる教育体系を築くことが求められている。こうした取り組みは、人口減のなかで人材を最大限に生かして社会基盤を支え、同時に個々人のウェルビーイングを高める道筋にもなる。

経団連では 2040 年に目指すべき国家像と求められる取り組みをまとめた「FUTURE DESIGN 2040」を 2024 年 12 月に公表し、教育を施策の柱の 1 つに位置付けている。本提言において、さらに議論を深め、経済界が必要と考える 2040 年を見据えて必要な教育改革を提言し、政府をはじめ関係各方面に対し、速やかに改革に着手するよう求める。必要な改革メニューや予算等については、2025

¹ 出所：文部科学省「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方に関する検討状況について」（教育・大学改革推進委員会 2024 年度第 1 回（2024 年 8 月 30 日）配付資料）

（２）目指す姿

これからは、仮説を立てて検証し、情報の統合を通じて、ビジネスモデルの変革など新たな価値を創出する力が求められる。

そうした力を持つ人材を育成するためには、初等中等教育において、教科学習等で得られた知識を社会の様々な場面で活用できるよう、教育の方法や価値観を再構築することが肝要である。今後、一人ひとりの多様な個性と好奇心、探究心を伸ばす教育改革の実現により、人材の裾野の広がりトップ層を含む全体の能力強化を実現することを目指すべきである。

また、ＡＩ・デジタル化の進展により、ＩＴ企業に限らず、あらゆる産業・企業においてＡＩ・デジタルを最大限に使いこなせることが必要不可欠となっている。このため、製造、金融、物流、医療など各産業の特性を踏まえつつ、ＡＩ・デジタルを駆使する能力・スキルの重要性が高まっていくと見られる。例えば、製造業では、デジタル技術の活用による生産性や品質の向上が求められているものの、製造現場でデジタル技術を導入・活用できる人材の不足が制約要因の１つとなっている。このため、モノづくり分野においてデジタル技術を活用できる「モノづくり×デジタル」人材の育成・活躍は待ったなしの課題と言える。また、前述の通り、多くの職種において、ＡＩによる雇用の代替・補完が進む一方、新たな労働需要も生まれることから、個々人は、状況変化に対応した能力開発・スキルアップが求められる。社会全体で、様々な産業の特性を踏まえつつ、ＡＩ・デジタルを使いこなせる人材を育成するとともに、ＡＩやデジタルを人々の成長と活躍のために活用していく必要がある⁶。

さらに、新興国・途上国が台頭する国際社会において、わが国が発言力・影響力を持つためには、社会課題の解決を通じて、国内外の持続的な経済および社会の発展に貢献し、世界中からヒト・モノ・カネを惹きつける「貿易・投資立国」の実現を目指すべきである。その実現にあたっては、世界各国で、多様なバックグラウンドを持つ人たちと協働しながら、内外の様々な社会課題の解決に取り組み、新たな経済価値を生み出すとともに、国際連携をリードするグローバル人材の育成が不可欠である。

そこで以下の観点から、社会変革に向け一貫通貫で教育改革を実施し、わが国の国際競争力を高めるべく、「最先端技術立国」「無形資産立国」「貿易・投資立国」の実現とともに「全世代型教育システム」の構築を目指すべきである。

⁶ 初等中等教育において、社会全体でＳＮＳによる誹謗中傷やいじめへの対策を強化するとともに、情報教育を通じて情報活用能力を身につけさせることで、正しく安全にＡＩ・デジタルを活用できる人材を育成することが重要である。

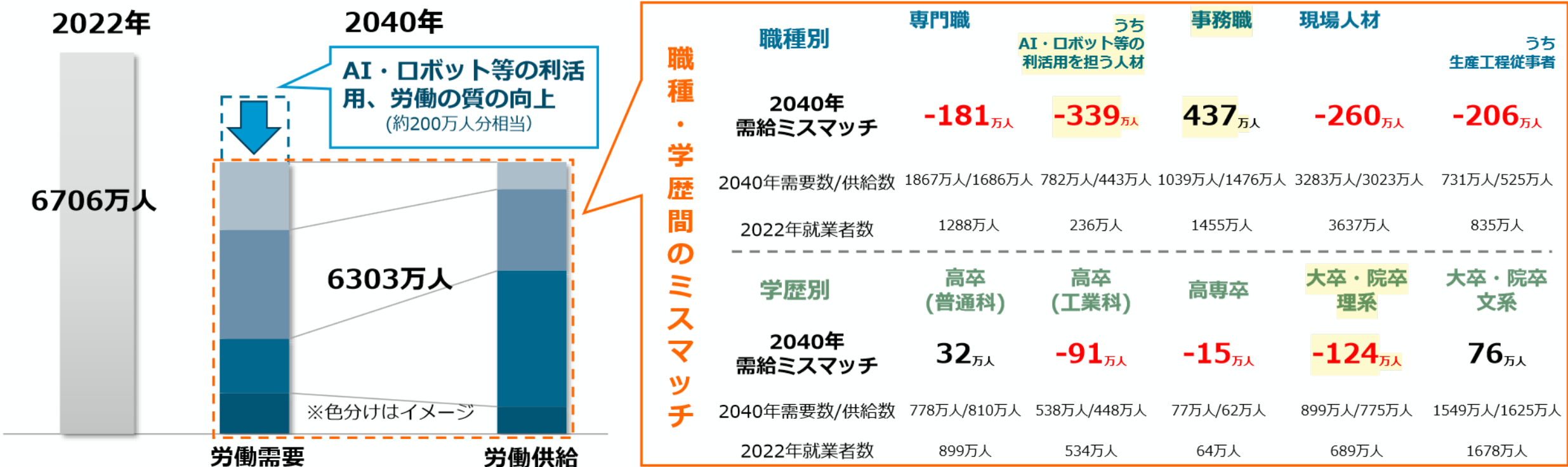
2040年の就業構造推計（改訂版）について

2026年 3 月

経済産業省 経済産業政策局

2040年の就業構造推計（改訂版）の概要

- 2040年に十分な国内投資や産業構造転換が実現する場合^(注)、人口減少により就業者数は約6700万人^(2022年)から約6300万人となるが、AI・ロボット等の利活用やリスキリング等により労働需要が効率化され、全体で大きな不足は生じない。
- 一方で、職種・学歴・地域間では需給ミスマッチが生じるリスクがあり、事務職^(約440万人)や文系人材^(約80万人)が余剰、AI・ロボット等利活用人材^(約340万人)を含む専門職や現場人材^(約260万人)、理系人材^(約120万人)が不足する可能性。



(注) 2025年6月経済産業省産業構造審議会経済産業政策新機軸部会「第4次中間整理」における2040年の産業構造推計（新機軸ケース）を前提としている。また、2022年就業者数は、総務省「就業構造基本調査」（令和4年度）、文部科学省「学校基本調査」（令和4年度）の調査票情報を基に経済産業省が独自に作成・加工して利用しており、提供主体（総務省、文部科学省）が作成・公表している統計等とは異なる。

(注) 職種分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職業分類（総務省）による。「専門職」は、専門的・技術的職業従事者を指す。うち「AI・ロボット等の利活用を担う人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。学歴は学校基本調査上の学部学科コードを元に分類。資料は「資料1-6 学生確保率」。

2

全国版就業構造推計（改訂版）・職種間ミスマッチ

- AI・ロボット等利活用による省力化に伴い、事務職は約440万人の余剰が生じる可能性。
- 多くの産業において、AI・ロボット等利活用人材(約340万人)や現場人材(約260万人)が不足。

		専門職		事務職		現場人材	
		うち AI・ロボット等の 利活用を担う人材		うち 生産工程従事者		うち その他現場人材	
全産業	2040年 需給ミスマッチ	-181万人	-339万人	437万人	-260万人	-206万人	-54万人
	2040年需要数/供給数	1867万人/1686万人	782万人/443万人	1039万人/1476万人	3283万人/3023万人	731万人/525万人	2552万人/2498万人
	2022年就業者数	1288万人	236万人	1455万人	3637万人	835万人	2803万人
主な産業の2040年の需給ミスマッチの内訳	農林水産業	-9	-7	-1	-110	-3	-107
	製造業	-149	-125	-40	-256	-198	-58
	情報通信業	116	102	50	13	2	11
	卸売業、小売業	-81	-77	26	-20	-4	-16
	建設業	-33	-26	20	-31	-2	-30
	宿泊業、飲食サービス業	-21	-21	2	12	0	12
	運輸業、郵便業	-25	-26	27	26	0	25

(注) 2022年就業者数は、総務省「就業構造基本調査」(令和4年度)、文部科学省「学校基本調査」(令和4年度)の調査票情報を基に経済産業省が独自に作成・加工して利用しており、提供主体が作成・公表している統計等とは異なる。
(注) 産業分類は令和4年就業構造基本調査で用いた産業分類(総務省)による。職業分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職業分類(総務省)による。「専門職」は専門的・技術的職業従事者を指す。また、うち「AI・ロボット等利活用人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。なお、表中には主要な項目のみ掲載しており、ミスマッチ数の合計はゼロにならない。

都道府県×職種（2040年のミスマッチ数②）

都道府県	合計	専門職	うちAI・ロボット等の 利活用を担う人材	事務職	現場人材	うち生産工程従事者
福井県	-1.3	-1.3	-2.4	2.3	-1.9	-1.7
滋賀県	-2.2	-4.9	-6.4	4.4	-1.4	-3.6
京都府	-9.8	-0.8	-8.0	8.3	-18.2	-6.2
大阪府	16.8	-12.8	-22.3	31.3	-5.8	-17.8
兵庫県	8.4	-5.5	-13.4	16.4	-2.9	-7.5
奈良県	0.0	-2.4	-3.3	3.6	-1.3	-2.0
和歌山県	-4.6	-2.5	-3.2	2.1	-4.2	-1.5
鳥取県	-0.3	-0.8	-1.5	1.8	-1.3	-0.6
島根県	0.5	-0.8	-2.1	2.1	-0.6	-1.3
岡山県	-0.5	-1.8	-5.5	5.6	-4.2	-2.5
広島県	3.9	-3.2	-8.2	9.4	-2.2	-4.1
山口県	-0.2	-2.3	-3.3	3.7	-1.4	-1.9
徳島県	-1.6	-1.9	-2.3	1.9	-1.5	-1.2
香川県	-1.3	-2.1	-2.6	3.3	-2.4	-1.5
愛媛県	-2.6	-2.4	-3.8	3.4	-4.2	-2.3
高知県	-0.8	-1.1	-1.7	1.9	-1.6	-0.8
福岡県	7.9	-6.6	-14.4	19.8	-5.9	-9.0
佐賀県	-1.4	-1.5	-2.7	2.4	-2.5	-2.1
長崎県	-2.5	-2.8	-3.9	3.2	-3.5	-1.8
熊本県	-4.5	-3.9	-6.3	4.8	-5.2	-2.8
大分県	-5.0	-3.1	-4.0	2.9	-4.7	-2.1
宮崎県	-2.1	-2.1	-2.9	3.5	-3.7	-1.6
鹿児島県	-4.9	-3.2	-5.3	3.2	-4.6	-2.5
沖縄県	-18.3	-2.6	-5.6	5.4	-21.0	-1.0

（単位：万人）

（注）職業分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職業分類（総務省）による。「専門職」は専門的・技術的職業従事者を指す。うち「AI・ロボット等の利活用を担う人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。なお、表中には主要な項目のみの掲載しており、合計の列の値と各項目を合計した値は一致しない。

佐賀県施策方針2023

令和5年8月 佐賀県



志を胸に 骨太な人材の育成

施策分野	施策	主な取組
(一) 教育	①志と誇りを高める教育の推進	・ 唯一無二の誇り高き学校づくり ・ キャリア教育の充実 ・ ふるさと佐賀への誇りや深い愛着を持った人材の育成
	②自分らしく学べる「さがん学び」の推進	・ 「さがん学びプロジェクト」 ・ 中高生の海外での挑戦や外国人児童生徒に対する支援
	③健やかな佐賀のこどもを育む教育の推進	・ 児童生徒の体力・運動能力等の向上 ・ 健康に対する意識の醸成 ・ SAGA部活の推進 ・ 道徳教育、人権・同和教育等の心の教育の充実
	④誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進	・ インクルーシブ教育の体制づくり ・ 県立夜間中学（「彩志(さいし)学舎中学校」）の開校 ・ 不登校・いじめの相談体制の充実
	⑤教育DXの推進と学びを支える環境づくり	・ デジタル技術を活用し課題解決に向かう力の育成 ・ 豊かな人間性や実践的な指導力を備えた教職員の確保・育成
	⑥特色ある私立学校づくり	・ 創意工夫による特色ある学校づくりと魅力の発信 ・ 県外流出防止と県内職業人材の確保 ・ 専修学校支援
	⑦高等教育機関の充実	・ 「TSUNAGIプロジェクト」 ・ 産学官連携による県内大学生等の県内定着促進 ・ 県立大学の調査・検討
学生生涯(二)	①ライフステージに応じたまなびの環境づくり	・ 多様な学びの機会の充実（はじめてのまなび応援、弘道館2 など） ・ 誰もが本に親しむ環境づくりの充実（県内司書のレベルアップ、県立図書館における新刊児童書全点購入 など）

ステークホルダー調査結果概要

- 調査対象：本学が所属する2団体に参加する企業・自治体等 110機関
(メディア・通信・電器、ソフトウェア・情報処理サービス、金融・保険、メーカー、建設・設備・土木、販売・サービス、各種団体・学校、地方自治体)
- 調査期間：令和7年1月15日（水）～21日（火）
- 回答数：57機関（回答率51.8%）
- 調査結果は以下のとおり（自由記述を除く）

	コミュニケーション能力	デジタルスキル	調査企画できる能力	調査分析できる能力	調査結果を解釈できる能力	調査結果を発信する能力	プロジェクトマネジメント能力	ブリッジ能力	その他
新卒文系人材に不足している能力（複数回答）	30	16	22	23	21	13	22	20	7
特に必要な能力（2つ）	34	10	10	7	11	2	20	14	2

従来から求められてきた能力

新たに求められている能力

佐賀大学
「経済学部 経済学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和8年2月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

学生確保(資料)－12

1. 調査目的

2027年4月開設予定の佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称)設置構想に関して、企業からの採用ニーズを把握する。

2. 調査概要

企業対象調査		
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		北海道、青森県、山形県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、滋賀県、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
調査方法		WEB調査
調査 対象数	依頼数	3,234企業
	回収数(回収率)	230企業(7.1%)
調査時期		2025年8月22日(金)～2025年11月28日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
・ 人事採用への関与度 ・ 本社(本部)所在地 ・ 業種 ・ 正規社員の従業員数 ・ 正規社員の平均採用人数 ・ 本年度の採用予定数 ・ 採用したい学問分野 ・ 佐賀大学「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度 ・ 佐賀大学「経済学部 経済学科」の社会的必要性 ・ 佐賀大学「経済学部 経済学科」卒業生に対する採用意向 ・ 佐賀大学「経済学部 経済学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

採用意向調査 調査結果

※報告書内の表中の％の母数は、
特に断りがない場合、回答企業全体(230企業)

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、佐賀大学「経済学部 経済学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計。佐賀大学の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、230企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は23.0%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が63.0%と、採用や選考に関わっている人事担当者から意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社(本部)所在地は、「東京都」が26.1%で最も多い。次いで「福岡県」が25.7%、佐賀大学の本部所在地である「佐賀県」が21.3%と続く。
- 回答企業の業種としては「製造業」が23.5%で最も多い。次いで「情報通信業」が21.3%、「卸売・小売業」が15.2%と続く。
- 回答企業の正規社員の従業員数は、「100名～500名未満」が31.3%と最も多い。次いで「1,000名～5,000名未満」が19.6%、「500名～1,000名未満」が17.0%と続く。100名以上の比較的規模が大きい企業が7割以上を占める。

回答企業の採用状況(過去3か年平均)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は「1名～5名未満」が33.5%と最も多く、次いで「10名～20名未満」が18.7%、「5名～10名未満」が16.5%と続く。毎年正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が70.0%と最も多く、次いで「増やす」が22.6%である。回答企業の多くで昨年以上の採用が予定されている模様である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聞いたところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が45.7%で最も高い。次いで「経済学部 経済学科」の学びと関連する「商学・経済学関係(経済学、経営学、会計学など)」が38.7%、「工学(機械工学、工芸学など)」も同様に38.7%である。その他、「経済学部 経済学科」の学びと関連する「法学・政治学関係」は23.9%である。

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

上段: % 下段: 件数(企業)	標 本 数	かあり採 かわ、の つ選決 て考裁 いに権 る が	かな採 かい用の わがの つ、決 て選裁 い考権 る には	提やかか採 供意か用 する見わ時 るをらには 立収ず、直 場集、情接 に・情報報	無 回 答
全体	230	23.0 53	63.0 145	13.9 32	0.0 0

■本社(本部)所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

上段: % 下段: 件数(企業)	標 本 数	北 海 道	青 森 県	山 形 県	埼 玉 県	千 葉 県	東 京 都	神 奈 川 県	愛 知 県
全体	230	0.4 1	0.4 1	0.4 1	0.4 1	0.4 1	26.1 60	3.0 7	2.6 6

上段: % 下段: 件数(企業)	標 本 数	滋 賀 県	大 阪 府	兵 庫 県	岡 山 県	広 島 県	山 口 県	愛 媛 県	福 岡 県
全体	230	0.4 1	6.1 14	0.4 1	0.4 1	0.9 2	0.4 1	0.4 1	25.7 59

上段: % 下段: 件数(企業)	標 本 数	佐 賀 県	長 崎 県	熊 本 県	大 分 県	宮 崎 県	鹿 児 島 県	無 回 答
全体	230	21.3 49	2.2 5	3.9 9	2.2 5	0.9 2	0.9 2	0.0 0

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	鉱業・ 林・漁・ 業	建設業	製造業	水道・ 熱供給・ 電気・ガス・ 業	情報通 信業	運輸業	卸売・小 売業	金融・保 険業
上段: % 下段: 件数(企業)									
全体	230	0.9 2	10.4 24	23.5 54	0.9 2	21.3 49	2.2 5	15.2 35	3.9 9

	標 本 数	不動産業	宿泊・ 飲食店・ 業	医療・ 福祉	複合サ ービス	サー ビス業	公務	その他	無回 答
上段: % 下段: 件数(企業)									
全体	230	0.9 2	1.3 3	2.6 6	2.2 5	8.7 20	1.3 3	4.8 11	0.0 0

■正規社員の従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	50 名未 満	150 名未 満	510 名未 満	150 名未 満	510 名未 満	510 名未 満	無回 答
上段: % 下段: 件数(企業)								
全体	230	16.1 37	8.3 19	31.3 72	17.0 39	19.6 45	7.8 18	0.0 0

回答企業(回答者)の属性、採用状況等

■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	0 名	5 1 名 名 未 未 満 満	1 5 0 名 名 未 満 満	2 1 0 0 名 名 未 未 満 満	3 2 0 0 名 名 未 未 満 満	5 3 0 0 名 名 未 未 満 満	1 5 0 0 名 名 未 未 満 満	1 0 0 0 名 名 以 以 上 上	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業)										
全体	230	2.2 5	33.5 77	16.5 38	18.7 43	7.8 18	6.1 14	0.0 0	15.2 35	0.0 0

■本年度の採用予定数

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	標 本 数	増 や す	昨 年 度 並 み	減 ら す	未 定	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業)						
全体	230	22.6 52	70.0 161	3.0 7	4.3 10	0.0 0

採用したい学問分野

■採用したい学問分野

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	標 本 数	商 学・ 経 済 学 関 係 (経 済 学 、 経 営 学 、 会 計 学 な ど)	法 学 ・ 政 治 学 関 係	社 会 学 関 係	人 文 科 学 (文 学 、 史 学 な ど)	理 学 (数 学 、 物 理 学 な ど)	工 学 (機 械 工 学 、 工 芸 学 な ど)	農 学 (林 学 、 水 産 学 な ど)
上段: % 下段: 件数(企業)								
全体	230	38.7 89	23.9 55	20.4 47	14.8 34	29.6 68	38.7 89	17.4 40

	標 本 数	保 健 (医 学 、 薬 学 、 看 護 学 な ど)	家 政 (食 物 学 、 児 童 学 な ど)	教 育 (教 育 学 、 体 育 学 な ど)	そ の 他	学 ん だ 学 問 分 野 に は こ だ わ ら な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業)							
全体	230	5.2 12	6.5 15	10.9 25	6.5 15	45.7 105	0.0 0

佐賀大学「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度

「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度(※)は、3つの項目すべてで9割を超える。

- 最も魅力度が高いのは「A. 社会課題を経済学・経営学・法学の知識とデータサイエンスの力で解決に導くプロジェクトマネジメント人材を養成します。」で97.8%である。
- 次に魅力度が高いのは「B. 社会科学、データサイエンスの基礎を学んだ後、5つのユニット※から専門分野を選択し、社会で即戦力となり得る力を養成するための解像度の高い学びを実現します。※5つのユニット:デジタルマネジメント、政策マネジメント、エリアマネジメント、マーケティングマネジメント、会計・ファイナンスマネジメント」「C. 企業・自治体と連携した社会課題演習や外部講師による講義など、学外のリソースを多方面から取り入れ、より発展的・実践的な学びを展開します。」でいずれも96.5%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

佐賀大学「経済学部 経済学科」の特色に対する 魅力度

■佐賀大学「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度

Q8. 佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. 社会課題を経済学・経営学・法学の知識とデータサイエンスの力で解決に導くプロジェクトマネジメント人材を養成します。

特色B. 社会科学、データサイエンスの基礎を学んだ後、5つのユニット※から専門分野を選択し、社会で即戦力となり得る力を養成するための解像度の高い学びを実現します。※5つのユニット: デジタルマネジメント、政策マネジメント、エリアマネジメント、マーケティングマネジメント、会計・ファイナンスマネジメント

特色C. 企業・自治体と連携した社会課題演習や外部講師による講義など、学外のリソースを多方面から取り入れ、より発展的・実践的な学びを展開します。

	標 本 数	魅と も 力 を 感 じ る	魅あ る 程 度 を 感 じ る	魅あ ま り を 感 じ な い	魅ま つ た く を 感 じ な い	魅 力 度 (※)	無 回 答
上段: % 下段: 件数(企業)							
特色A	230	58.3 134	39.6 91	2.2 5	0.0 0	97.8 225	0.0 0
特色B	230	57.8 133	38.7 89	3.5 8	0.0 0	96.5 222	0.0 0
特色C	230	60.9 140	35.7 82	3.5 8	0.0 0	96.5 222	0.0 0

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

※魅力度は、件数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

佐賀大学「経済学部 経済学科」 の社会的必要性／採用意向／採用想定人数

佐賀大学「経済学部 経済学科」の社会的必要性

- 「経済学部 経済学科」について「必要だと思う」と回答した企業は、97.8% (225 企業) であり、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学部・学科と捉えていることがうかがえる。

佐賀大学「経済学部 経済学科」卒業生の採用意向／ 毎年の採用想定人数

- 「経済学部 経済学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業は97.8% (225 企業) である。
 - 「経済学部 経済学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業へ、「経済学部 経済学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**472名**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。
- このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

■佐賀大学「経済学部 経済学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は、佐賀大学「経済学部 経済学科」（仮称、設置構想中）は、これからの社会にとって必要だと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

上段：％ 下段：件数（企業）	標本数	必要だと思 う	必要だと思 わない	無回答
全体	230	97.8 225	2.2 5	0.0 0

■佐賀大学「経済学部 経済学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体（ご回答者）では、佐賀大学「経済学部 経済学科」（仮称、設置構想中）を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。（あてはまる番号1つに○）

上段：％ 下段：件数（企業）	標本数	採用したいと思 う	採用したいと思 わない	無回答
全体	230	97.8 225	2.2 5	0.0 0



「採用したいと思う」と答えた225企業のみ抽出

■佐賀大学「経済学部 経済学科」卒業生に対する毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、佐賀大学「経済学部 経済学科」（仮称、設置構想中）を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。（あてはまる番号1つに○）

	標 本 数	単 位	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名 ～ 9 名	1 0 名 以 上	計 （ ※ ） お よ び た 採 用 業 数 ・ 計 人 数 ・ 毎 年 の 採 用 業 数 ・ 採 用 業 数 ・ 計 人 数 ・ 毎 年 の 採 用 業 数 ・ 計 人 数 ・
全体	225	％	44.0%	33.8%	12.9%	0.4%	6.2%	2.7%	⇒ 225 472
		企業数	99	76	29	1	14	6	
		名	99	152	87	4	70	60	

※％の母数は、「経済学部 経済学科」卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業（225企業）

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調查票

佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)
に関するアンケート

佐賀大学では2027年(令和9年)4月より、既設の「経済学部 経済学科、経営学科、経済法学科」を改組し、「経済学部 経済学科」(仮称)を設置することを構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 農・林・漁・鉱業 | 6. 運輸業 | 11. 医療・福祉 |
| 2. 建設業 | 7. 卸売・小売業 | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 製造業 | 8. 金融・保険業 | 13. サービス業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9. 不動産業 | 14. 公務 |
| 5. 情報通信業 | 10. 飲食店・宿泊業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 増やす | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 |

裏面へ続く→

Q7. 貴社・貴団体(ご回答者)では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)

- ① 商学・経済学関係
(経済学、経営学、会計学など)

② 法学・政治学関係

③ 社会学関係

④ 人文科学
(文学、史学など)
- ⑤ 理学
(数学、物理学など)

⑥ 工学
(機械工学、工芸学など)

⑦ 農学
(林学、水産学など)

⑧ 保健
(医学、薬学、看護学など)
- ⑨ 家政
(食物学、児童学など)

⑩ 教育
(教育学、体育学など)

⑪ その他

⑫ 学んだ学問分野にはこだわらない

佐賀大学では、2027年(令和9年)4月に、
新しく「経済学部 経済学科」(仮称)を設置することを構想しています。
※ここからは、アンケートに同封している資料をご覧ください※

Q8. 佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例. ○○します。	→	1	②	3	4
A. 社会課題を経済学・経営学・法学の知識とデータサイエンスの力で解決に導くプロジェクトマネジメント人材を養成します。	→	1	2	3	4
B. 社会科学、データサイエンスの基礎を学んだ後、5つのユニット※から専門分野を選択し、社会で即戦力となり得る力を養成するための解像度の高い学びを実現します。	→	1	2	3	4
C. 企業・自治体と連携した社会課題演習や外部講師による講義など、学外のリソースを多方面から取り入れ、より発展的・実践的な学びを展開します。	→	1	2	3	4

※ 5つのユニット: デジタルマネジメント、政策マネジメント、エリアマネジメント、マーケティングマネジメント、会計・ファイナンスマネジメント
(詳細は、別添リーフレットのPOINT 02をご確認ください。)

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)は、
これからの社会にとって必要だと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)

1. 必要だと思う
2. 必要だと思わない

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)を卒業した
学生について、採用したいと思われませんか。(あてはまる番号1つに○)

1. 採用したいと思う
2. 採用したいと思わない

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)を卒業した
学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

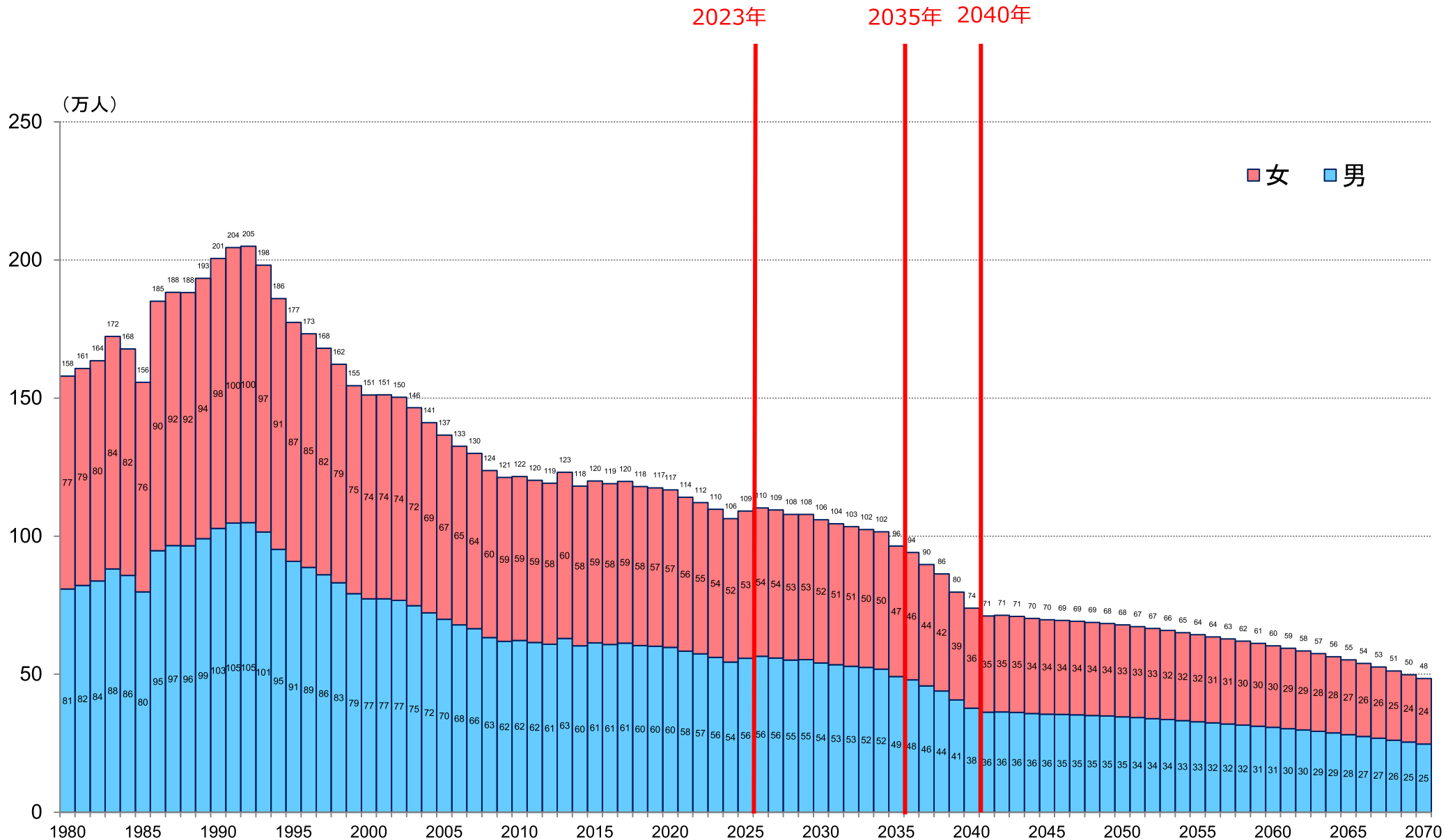
1. 1名
3. 3名
5. 5名～9名
2. 2名
4. 4名
6. 10名以上

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

18歳人口(男女別)の将来推計

資料6

- 我が国の18歳人口の推移を見ると、2005年には約137万人であったものが、現在は約110万人まで減少している。
- 今後、2035年には初めて100万人を割って約96万人となり、さらに2040年には約74万人にまで減少するという推計もある。



(出典) 2022年以前は文部科学省「学校基本統計」、
2023年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）（出生低位・死亡低位）」を元に作成

2040年における18歳人口（推計）の減少割合（2021年実績値基準）

順位	都道府県名	地域	18歳人口（2021年）	18歳人口（2040年）	減少割合
1	東京	関東	104,150	92,106	88%
2	沖縄	九州・沖縄	16,363	13,082	80%
3	福岡	九州・沖縄	46,524	34,719	75%
4	熊本	九州・沖縄	16,741	11,584	69%
4	愛知	中部	71,537	49,082	69%
6	佐賀	九州・沖縄	8,412	5,622	67%
6	鹿児島	九州・沖縄	15,625	10,500	67%
6	神奈川	関東	78,433	52,183	67%
9	滋賀	近畿	14,328	9,494	66%
9	宮崎	九州・沖縄	10,517	6,901	66%
11	岡山	中国・四国	18,190	11,892	65%
11	大阪	近畿	79,549	51,865	65%
11	千葉	関東	54,908	35,741	65%
11	埼玉	関東	64,508	41,712	65%
15	島根	中国・四国	6,233	3,996	64%
15	広島	中国・四国	26,108	16,686	64%
17	大分	九州・沖縄	10,244	6,503	63%
17	京都	近畿	23,145	14,655	63%
17	兵庫	近畿	51,482	32,315	63%
17	鳥取	中国・四国	5,195	3,259	63%
21	石川	中部	10,574	6,596	62%
21	長崎	九州・沖縄	12,691	7,814	62%
23	福井	中部	7,584	4,651	61%
23	香川	中国・四国	9,310	5,640	61%
25	三重	近畿	17,458	10,378	59%
25	宮城	東北	20,998	12,328	59%
27	富山	中部	9,656	5,640	58%
27	山梨	中部	7,768	4,521	58%
27	徳島	中国・四国	6,581	3,829	58%
27	山口	中国・四国	12,219	7,053	58%
31	愛媛	中国・四国	12,483	7,171	57%
31	高知	中国・四国	6,184	3,528	57%
31	北海道	北海道	45,007	25,440	57%
34	静岡	中部	34,622	19,553	56%
34	栃木	関東	18,417	10,379	56%

2040年における18歳人口（推計）の減少割合（2021年実績値基準）

順位	都道府県名	地域	18歳人口（2021年）	18歳人口（2040年）	減少割合
34	長野	中部	20,242	11,393	56%
34	和歌山	近畿	8,809	4,953	56%
34	奈良	近畿	12,973	7,294	56%
34	新潟	中部	19,807	11,136	56%
40	茨城	関東	27,454	15,183	55%
40	岐阜	中部	20,034	10,969	55%
40	群馬	関東	18,806	10,284	55%
43	山形	東北	10,269	5,334	52%
44	福島	東北	17,622	8,873	50%
45	岩手	東北	11,379	5,609	49%
46	青森	東北	11,830	5,732	48%
47	秋田	東北	8,171	3,865	47%

○出展：文部科学省 中央教育審議会 第180回大学分科会・第14回高等教育のあり方に関する特別部会 参考資料

九州北部及び山口地区の4大学の経済学系学部の入学生志願状況

	過去5年間	令和7年度			令和6年度			令和5年度			令和4年度			令和3年度		
	平均志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率
佐賀大学経済学部	3.4	260	781	3.0	260	794	3.1	260	907	3.5	260	1,049	4.0	260	922	3.5
山口大学経済学部	3.0	330	917	2.8	345	1,018	3.0	345	1,263	3.7	345	976	2.8	345	1,043	3.0
長崎大学経済学部	2.6	295	806	2.7	295	772	2.6	295	804	2.7	325	905	2.8	325	776	2.4
大分大学経済学部	4.0	270	1,193	4.4	270	1,282	4.7	270	913	3.4	290	952	3.3	290	1170	4.0
平均	3.3			3.2			3.3			3.3			3.2			3.2

受験倍率の推移

	過去5年間	令和7年度			令和6年度			令和5年度			令和4年度			令和3年度		
	平均受験倍率	募集人員	受験者数	受験倍率	募集人員	受験者数	受験倍率	募集人員	受験者数	受験倍率	募集人員	受験者数	受験倍率	募集人員	受験者数	受験倍率
佐賀大学経済学部	2.1	260	504	1.9	260	482	1.9	260	550	2.1	260	679	2.6	260	579	2.2
山口大学経済学部	2.1	330	632	1.9	345	645	1.9	345	822	2.4	345	682	2.0	345	741	2.1
長崎大学経済学部	1.9	295	597	2.0	295	571	1.9	295	541	1.8	325	674	2.1	325	611	1.9
大分大学経済学部	2.3	270	690	2.6	270	702	2.6	270	524	1.9	290	563	1.9	290	727	2.5
平均	2.1			2.1			2.1			2.1			2.2			2.2

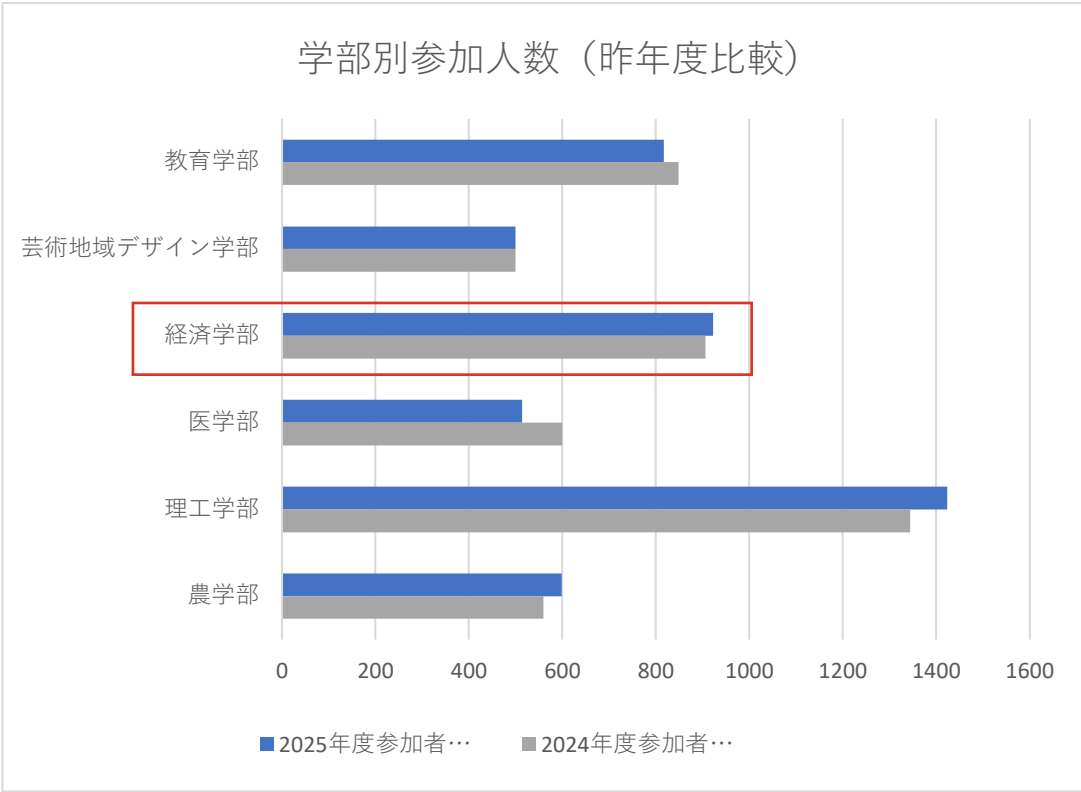
佐賀大学における地域別入学者の割合

地域	2020	2021	2022	2023	2024	過去5年 平均
佐賀	25.90%	27.80%	27.20%	24.10%	27.20%	26.40%
福岡	42.80%	42.70%	43.20%	46.50%	45.50%	44.10%
長崎	9.10%	9.10%	7.30%	7.40%	6.80%	7.90%
熊本	5.80%	5.70%	5.10%	5.00%	5.00%	5.30%
大分	2.30%	1.80%	2.50%	2.30%	2.30%	2.20%
宮崎	2.30%	3.40%	2.70%	2.90%	2.60%	2.80%
鹿児島	2.20%	2.20%	2.50%	1.80%	3.40%	2.40%
沖縄	1.10%	0.50%	0.50%	0.80%	0.30%	0.70%
北海道地区	0.10%	0.10%	0.30%	0.10%	0.10%	0.10%
東北地区	0.00%	0.00%	0.20%	0.00%	0.10%	0.00%
関東地区	1.20%	1.00%	1.30%	1.70%	0.60%	1.10%
中部地区	0.80%	0.60%	1.50%	1.20%	1.00%	1.00%
近畿地区	2.10%	1.60%	2.10%	1.70%	1.20%	1.70%
中国・四国地区	4.00%	3.00%	3.10%	4.20%	3.20%	3.50%
その他	0.40%	0.50%	0.60%	0.40%	0.70%	0.50%

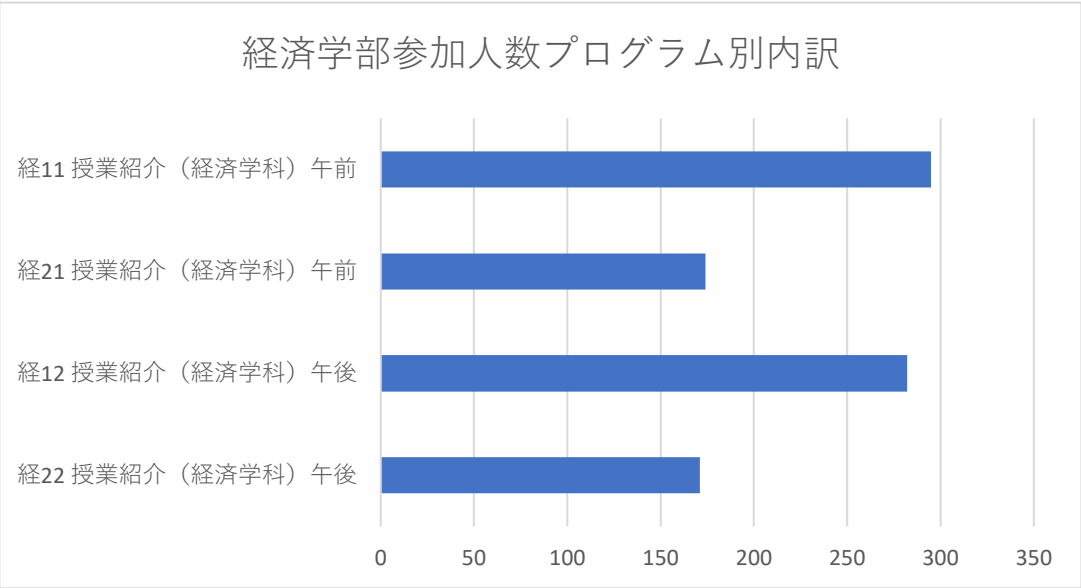
佐賀大学における地域別入学者数

地域	2020	2021	2022	2023	2024	過去5年 平均
佐賀	343	365	354	321	370	350.6
福岡	567	562	563	619	618	585.8
長崎	121	120	95	99	92	105.4
熊本	77	75	66	67	68	70.6
大分	31	24	33	30	31	29.8
宮崎	30	45	35	38	36	36.8
鹿児島	29	29	33	24	46	32.2
沖縄	15	7	7	11	4	8.8
北海道地区	1	1	4	1	2	1.8
東北地区	0	0	2	0	1	0.6
関東地区	16	13	17	22	8	15.2
中部地区	10	8	19	16	14	13.4
近畿地区	28	21	27	23	16	23
中国・四国地区	53	39	40	56	44	46.4
その他	5	6	8	5	9	6.6
計	1326	1315	1303	1332	1359	

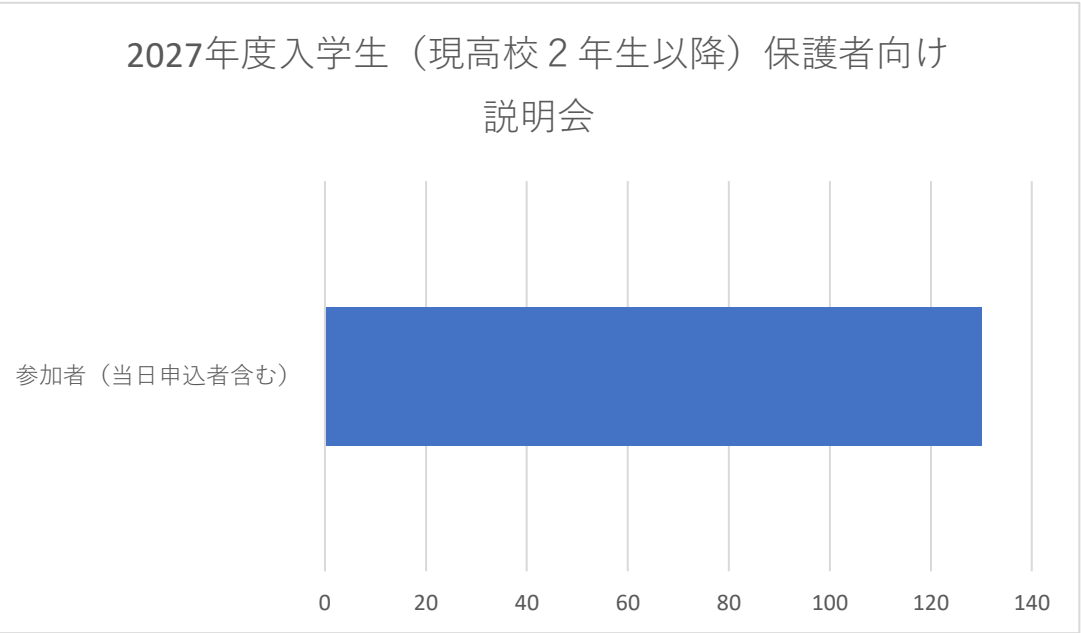
佐賀大学オープンキャンパス2025 参加者



学部	2025年度参加者 （当日申込者含む）	2024年度参加者 （当日申込者含む）
教育学部	817	848
芸術地域デザイン学部	500	500
経済学部	922	906
医学部	514	600
理工学部	1423	1344
農学部	598	559
全学	4774	4757



経済学部	参加者（当日申込者含む）
経11 授業紹介（経済学科）午前	295
経21 授業紹介（経済学科）午前	174
経12 授業紹介（経済学科）午後	282
経22 授業紹介（経済学科）午後	171



経済学部	参加者（当日申込者含む）
2027年度入学生（現高校2年生以降）保護者向け説明会	130

佐賀大学経済学部における入試状況

佐賀大学経済学部

項目	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	5年平均
入学定員	260	260	260	260	260	-
志願者数	922	1,049	907	794	781	890.6
受験者数	579	679	550	482	504	558.8
合格者数	319	312	321	322	316	318.0
入学者数	262	261	262	280	272	267.4
入学定員充足率	100.8%	100.4%	100.8%	107.7%	104.6%	102.8%
入学志願倍率	3.5	4.0	3.5	3.1	3.0	2.1

佐賀大学経済学部高大連携プログラム「社会へのとびら」実施状況

	担当教員	出席者数										
		申込者	1 年時①	1 年時②	1 年時③	2 年時①	2 年時②	2 年時③	3 年時①	修了者	レポート集	
2018年度生（2020年度修了生）	樫澤教授（経済法）、松尾准教授（経営）	56人	52人	21人	26人	10人	7人	13人	6人	6人	発行済	
2019年度生（2021年度修了生）	伊藤准教授（経済）、石井准教授（経営）	102人	92人	87人	42人	50人	22人	14人	10人	10人	発行済	
2020年度生（2022年度修了生）	中村教授（経済）、洪准教授（経営）	73人	-	-	-	69人	30人	25人	19人	21人	発行無	
2021年度生（2023年度修了生）	井上教授（経済法）、篠崎准教授（経営）	108人	101人	50人	29人	24人	28人	16人	22人	24人	発行済	
2022年度生（2024年度修了生）	山本教授（経営）、谷准教授（経済）	85人	82人	51人	36人	33人	29人	22人	17人	23人	発行済	
2023年度生（2025年度修了生）	吉田教授（経済）、安田准教授（経営）	64人	62人	38人	22人	28人	15人	14人	11人	11人	発行済	
2024年度生（2026年度修了生）	品川教授（経済）、山形准教授（経営）	91人	85人	68人	48人	40人	35人					
2025年度生（2027年度修了生）	藺田教授（経済）、野方教授（経営）	44人	42人	33人								
小計		623人	令和7年度参加者 93人（同年度：最多参加者数）								95人	

**佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】**

**令和8年2月
株式会社 進研アド**

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2027年4月開設予定の佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称)の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

高校生対象調査		
調査①		調査②
調査対象	入学実績のある高校在籍者 (高校2年生)	オープンキャンパス参加者 (高校2年生)
調査エリア	福岡県、佐賀県、長崎県、 熊本県、宮崎県	— (オープンキャンパスにて 参加者に直接配布)
調査方法	高校留め置き調査	オープンキャンパスでの 配布・回収
調査 対象数	依頼数	14校
	有効 回収数	948名(13校)
調査時期	2025年8月12日(火)～ 2025年11月28日(金)	2025年8月8日(金)
調査実施機関	株式会社 進研アド	

※重複してアンケートに回答していないかを聞く質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した人は集計から除外している。各調査回答者の重複はない。

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・学年 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・志望する設置者 ・興味のある学問分野 ・佐賀大学「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度 ・佐賀大学「経済学部 経済学科」への受験意向 ・佐賀大学「経済学部 経済学科」への入学意向

入学意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、
特に断りがない場合、回答者全体(1,441名)

回答者の属性

※本調査は、佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称)に対する需要を確認するための調査として設計。以下2種類の調査を実施して、合計1,441名から有効な回答を得た。

①留め置き調査

②オープンキャンパス調査

※各調査とも、重複してアンケートに回答していないかを聞く質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した人は集計から除外している。そのため、①留め置き調査、②オープンキャンパス調査で回答した高校生の間に回答者の重複はない。

- 調査対象者別の回答者数は、①留め置き調査が948名、②オープンキャンパス調査が493名である。回答者全体に占める割合は、①留め置き調査が65.8%、②オープンキャンパス調査が34.2%である。
- 回答者の性別は「男性」が39.1%、「女性」が59.4%である。
- 回答者の学年は「2年生」が100.0%である。
- 回答者の高校種別は、「公立」が84.9%、「私立」が15.0%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、佐賀大学の所在地である「佐賀県」が45.2%で最も多い。次に「福岡県」が32.9%、「宮崎県」が13.3%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が56.1%で最も多い。次に「その他」を除き、「理系クラス(理系コース)」が8.7%と続く。

■調査対象

	標 本 数	調 査 留 め 置 き	調 査 キ ャ ン プ ン ス
上段：％ 下段：件数（名）			
全体	1,441	65.8 948	34.2 493

■性別

	標 本 数	男 性	女 性	回 答 し な い	無 回 答
上段：％ 下段：件数（名）					
全体	1,441	39.1 564	59.4 856	1.4 20	0.1 1

■学年

	標 本 数	1 年 生	2 年 生	3 年 生	無 回 答
上段：％ 下段：件数（名）					
全体	1,441	0.0 0	100.0 1,441	0.0 0	0.0 0

■高校種別

	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無 回 答
上段：％ 下段：件数（名）					
全体	1,441	0.0 0	84.9 1,223	15.0 216	0.1 2

回答者の属性

■高校所在地

	標 本 数	大 阪 府	兵 庫 県	岡 山 県	山 口 県	福 岡 県	佐 賀 県	長 崎 県
上段: % 下段: 件数(名)								
全体	1,441	0.1 1	0.1 1	0.2 3	0.1 1	32.9 474	45.2 651	3.6 52

	標 本 数	熊 本 県	大 分 県	宮 崎 県	鹿 児 島 県	沖 縄 県	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)							
全体	1,441	3.7 54	0.8 11	13.3 191	0.1 1	0.1 1	0.0 0

■所属クラス

	標 本 数	文 系 ク ラ ス (文 系 コ ー ス)	理 系 ク ラ ス (理 系 コ ー ス)	ク ラ ス ・ コ ー ス 選 択 は な い	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)						
全体	1,441	56.1 808	8.7 126	7.4 107	25.4 366	2.4 34

高校卒業後の希望進路

- ・ 回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人は80.1%。次いで「専門学校」に進学が17.1%と続く。「短期大学」に進学は4.7%、「専門職大学」に進学は2.6%、「専門職短期大学」に進学は0.4%である。
- ・ 高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。その結果、佐賀大学の該当する「国立」への進学を希望する人は71.2%、「公立」が45.0%、「私立」が44.4%であった。

■高校卒業後の進路

Q1. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	大 学	短 期 大 学	専 門 職 大 学	専 門 職 短 期 大 学	専 門 学 校	就 職	そ の 他	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)									
全体	1,441	80.1 1,154	4.7 68	2.6 37	0.4 6	17.1 246	14.2 204	0.9 13	0.1 1

※「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」
のいずれかを選択した1,174名を抽出

■高校卒業後の進路(設置者別)

Q2. Q1で①～④を選択した方に質問です。(※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。)
志望する大学等の設置者を選択してください。
現在検討している(希望している)設置者すべてに○をつけてください。(複数選択可)

	標 本 数	国 立	公 立	私 立	大 学 「上 記 短 期 大 学 」 は 選 択 し て い な い	無 回 答
上段: % 下段: 件数(名)						
全体	1,174	71.2 836	45.0 528	44.4 521	0.0 0	0.7 8

※%の母数は、Q1で「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」のいずれかを選択した1,174名
学生確保(資料)－42

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「経済学部 経済学科」の学びと関連する「商学・経済学関係（経済学、経営学、会計学など）」が57.7%で最も高い。次いで同様に「経済学部 経済学科」の学びと関連する「法学・政治学関係」が19.5%、「その他」を除き「人文科学（文学、史学など）」が14.0%と続く。
- 回答者のうち、国立大学進学希望者に限定すると、「経済学部 経済学科」の学びと関連する「商学・経済学関係（経済学、経営学、会計学など）」が74.3%で最も高い。次いで同様に「経済学部 経済学科」の学びと関連する「法学・政治学関係」が27.8%、「人文科学（文学、史学など）」が16.5%と続く。

<国立大学進学希望者>

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「国立」への進学を希望。

■興味のある学問分野

Q3. ここからは**全員**にお聞きします。
高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。(複数選択可)
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

	標本数	会（商 計）学・経済学関係、 学など）	法 学・政治学関係	社 会学関係	人 文科学（文学、史学 など）	理 学（数学、物理学 など）	工 学（機械工学、 工芸学など）	農 学（林学、水産学 など）
上段：％ 下段：件数（名）								
全体	1,441	57.7 832	19.5 281	9.4 136	14.0 202	3.2 46	3.2 46	1.2 18

	標本数	保 健（医学、薬学、 看護学など）	家 政（食物学、児童学 など）	教 育（教育学、体育学 など）	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
上段：％ 下段：件数（名）							
全体	1,441	10.3 149	3.6 52	13.1 189	16.0 230	5.7 82	0.1 2

< 国立大学進学希望者ベース >

	標本数	会（商 計）学・経済学関係、 学など）	法 学・政治学関係	社 会学関係	人 文科学（文学、史学 など）	理 学（数学、物理学 など）	工 学（機械工学、 工芸学など）	農 学（林学、水産学 など）
上段：％ 下段：件数（名）								
国立大学 進学希望者	836	74.3 621	27.8 232	12.7 106	16.5 138	3.2 27	3.9 33	1.2 10

	標本数	保 健（医学、薬学、 看護学など）	家 政（食物学、児童学 など）	教 育（教育学、体育学 など）	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
上段：％ 下段：件数（名）							
国立大学 進学希望者	836	5.4 45	2.6 22	14.4 120	8.9 74	1.9 16	0.0 0

佐賀大学「経済学部 経済学科」への 受験・入学意向

※ここからは、下記の①～③の条件すべてに合致する回答者を、
佐賀大学「経済学部 経済学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「国立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「経済学部 経済学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
(商学・経済学関係(経済学、経営学、会計学など)、法学・政治学関係の
いずれかに興味あり)

佐賀大学「経済学部 経済学科」 クロス集計結果

佐賀大学「経済学部 経済学科」クロス集計結果

■佐賀大学「経済学部 経済学科」クロス集計結果

Q5. あなたは、佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つ選択してください。

Q6. **Q5で①～③(受験する)を選択した方**に質問です。
佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つ選択してください。

回答者数 (合計)	Q1 卒業後の進路	Q2 進学希望の 大学設置者	Q3 興味のある 学問分野	Q5 新設組織の 受験希望有無	Q6 合格した場合の 入学希望有無
1,441名	うち、	うち、	うち、	うち、	うち、
	①大学に進学 1,154名 (80.1%)	①国立 836名 (58.0%)	①商学・経済学関係 (経済学、経営学、 会計学など) ②法学・政治学関係 を選択 673名 (46.7%) ※新設組織に 該当する 学問分野 いずれかを 選択した者 のみ記載	①第一志望として 受験する 289名 (20.1%)	①入学する 284名 (19.7%)
					②志望順位が上位の 他の志望校が不合格 の場合に入学する 5名 (0.3%)
					③入学しない 0名 (0.0%)
				②第二志望として 受験する 172名 (11.9%)	①入学する 67名 (4.6%)
					②志望順位が上位の 他の志望校が不合格 の場合に入学する 105名 (7.3%)
					③入学しない 0名 (0.0%)
				③第三志望以降 として受験する 102名 (7.1%)	①入学する 9名 (0.6%)
					②志望順位が上位の 他の志望校が不合格 の場合に入学する 89名 (6.2%)
					③入学しない 4名 (0.3%)
				④受験しない	

入学見込者※
284名

※%の母数は、回答者全体(1,441名)
※「入学見込者」＝ターゲット層のうち、Q5で「経済学部 経済学科」を「第一志望として受験する」かつ
Q6で「入学する」と回答した人

佐賀大学「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度

【「経済学部 経済学科」ターゲット層】

下記の①～③の条件すべてに合致する回答者: 673名(回答者全体の46.7%)

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「国立」への進学を希望。
- ③ Q3で「経済学部 経済学科」の学びと関連する学問分野への興味あり
(商学・経済学関係(経済学、経営学、会計学など)、法学・政治学関係
のいずれかに興味あり)



- ・ターゲット層における「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、最も高いのは「A. 社会課題を経済学・経営学・法学の知識とデータサイエンスの力で解決に導くプロジェクトマネジメント人材を養成します。」(94.5%)である。次いで「B. 社会科学、データサイエンスの基礎を学んだ後、5つのユニット※から専門分野を選択し、社会で即戦力となり得る力を養成するための解像度の高い学びを実現します。※5つのユニット: デジタルマネジメント、政策マネジメント、エリアマネジメント、マーケティングマネジメント、会計・ファイナンスマネジメント」(94.4%)、「C. 企業・自治体と連携した社会課題演習や外部講師による講義など、学外のリソースを多面から取り入れ、より発展的・実践的な学びを展開します。」(93.9%)。
- ・ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人(第一志望者)における「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度(※)を見ると、「特色C」が98.9%で最も高い。次いで「特色B」が98.6%、「特色A」が98.2%。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

佐賀大学「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度

■佐賀大学「経済学部 経済学科」の特色に対する魅力度

Q4. 佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

特色A. 社会課題を経済学・経営学・法学の知識とデータサイエンスの力で解決に導くプロジェクトマネジメント人材を養成します。

特色B. 社会科学、データサイエンスの基礎を学んだ後、5つのユニット※から専門分野を選択し、社会で即戦力となり得る力を養成するための解像度の高い学びを実現します。※5つのユニット: デジタルマネジメント、政策マネジメント、エリアマネジメント、マーケティングマネジメント、会計・ファイナンスマネジメント

特色C. 企業・自治体と連携した社会課題演習や外部講師による講義など、学外のリソースを多方面から取り入れ、より発展的・実践的な学びを展開します。

上段: % 下段: 件数(名)	標本数	特色A	特色B	特色C
ターゲット層	673	94.5 636	94.4 635	93.9 632
第一志望者	284	98.2 279	98.6 280	98.9 281

※第一志望者:
ターゲット層(大学進学希望×国立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、
佐賀大学「経済学部 経済学科」を「第一志望として受験する」かつ「入学する」と
回答した人

卷末資料 調查票

佐賀大学 経済学部 経済学科（仮称、設置構想中） に関するアンケート

佐賀大学では2027年（令和9年）4月より、既設の「経済学部 経済学科、経営学科、経済法学科」を改組し、「経済学部 経済学科」（仮称）を設置することを構想しています。
このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、佐賀大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートと同封した資料に記載されている「経済学部 経済学科」（仮称、設置構想中）に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入
要
領

1. 回答は、**あてはまる番号**に「○」印をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3. 記入は、必ず**鉛筆**又は**シャープペンシル**で濃く書いてください。
4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、**番号丸枠からはみ出さないよう**に付けてください。

ここに○印をつけてください



商学

ID 41

良い
記入例

○ 商学
② 法学

悪い
記入例

① 商学
② 法学

① 商学
② 法学

① 商学
② 法学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	① 男性	② 女性	③ 回答しない
学年 (1つに○)	① 1年生	② 2年生	③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [] 都・道・府・県 ① 国立 ② 公立 ③ 私立 (←1つに○) [] 高等学校		
所属クラス (1つに○)	① 文系クラス（文系コース） ③ クラス・コース選択はない ② 理系クラス（理系コース） ④ その他		

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。
現在検討している進路すべてに○をつけてください。（複数選択可）

- | | | |
|--------|-----------|--------|
| ① 大学 | ③ 専門職大学 | ⑤ 専門学校 |
| ② 短期大学 | ④ 専門職短期大学 | ⑥ 就職 |
| | | ⑦ その他 |

Q2 Q1で①～④を選択した方に質問です。（※Q1で①～④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。）
志望する大学等の設置者を選択してください。
現在検討している（希望している）設置者すべてに○をつけてください。（複数選択可）

- ① 国立 ② 公立 ③ 私立

Q3 ここからは**全員**にお聞きします。
高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
以下の項目から、興味のある学問分野すべてに○をつけてください。（複数選択可）
※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

- | | | |
|-------------------------------|-----------------------|---------------------|
| ① 商学・経済学関係
(経済学、経営学、会計学など) | ⑤ 理学
(数学、物理学など) | ⑨ 家政
(食物学、児童学など) |
| ② 法学・政治学関係 | ⑥ 工学
(機械工学、工芸学など) | ⑩ 教育
(教育学、体育学など) |
| ③ 社会学関係 | ⑦ 農学
(林学、水産学など) | ⑪ その他 |
| ④ 人文科学
(文学、史学など) | ⑧ 保健
(医学、薬学、看護学など) | ⑫ わからない |

◆佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)についてお聞きます。

佐賀大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2027年(令和9年)4月に、
新しく「経済学部 経済学科」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q4 佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力 を感じる	ある程度 魅力 を感じる	あまり 魅力 を感じない	まったく 魅力 を感じない
例. ○○します。	→	①	○	③	④
A. 社会課題を経済学・経営学・法学の知識とデータサイエンスの力で解決に導くプロジェクトマネジメント人材を養成します。	→	①	②	③	④
B. 社会科学、データサイエンスの基礎を学んだ後、5つのユニット※から専門分野を選択し、社会で即戦力となり得る力を養成するための解像度の高い学びを実現します。	→	①	②	③	④
C. 企業・自治体と連携した社会課題演習や外部講師による講義など、学外のリソースを多方面から取り入れ、より発展的・実践的な学びを展開します。	→	①	②	③	④

※5つのユニット: デジタルマネジメント、政策マネジメント、エリアマネジメント、マーケティングマネジメント、会計・ファイナンスマネジメント
(詳細は、別添リーフレットのPOINT 02をご確認ください。)

Q5 あなたは、佐賀大学「経済学部 経済学科」(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つ選択してください。

- ① 第一志望として受験する
 ② 第二志望として受験する
 ③ 第三志望以降として受験する
- ④ 受験しない (→Q7にお進みください。)

Q6 Q5で①～③(受験する)を選択した方に質問です。
あなたは過去に佐賀大学のオープンキャンパスやイベントに参加し、本アンケートと同じ内容のアンケートに
あなたの考えに近い選択肢を、次より1つ選択してください。

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

Q7 最後に全員にお聞きます。
あなたは過去に佐賀大学のオープンキャンパスやイベントに参加し、本アンケートと同じ内容のアンケートに
回答したことがありますか。

- ① 同じアンケートに回答したことはない ② 同じアンケートに回答したことがある

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***